

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 小学5・6年生部門

●審査員 A

全国大会で選ばれた方々だったのでレベルが高く、完成度の高い演奏が多かったのですが、全国大会とは違うホールで響き方が違うため、即座に反応出来た方が入賞に結び付いたかと思います。特にペダリングに問題があって、多すぎるため速いパッセージが不明確になり損じた方や、カット無しの為、曲の終わり方に疑問を感じる演奏も見受けられました。

特に次回は中学生部門になり、ショパンの作品のみになるので作品への理解とペダルの問題は重要になります。今後は音をよく聞いて響きのコントロールが出来るように研鑽を積んで頂きたいと思いました。

●審査員 B

皆さん、今後勉強されていくうえで、是非以下のことを心がけてみてください。

- 1) ペダルについて：更に正確に踏めるとよいですね。少しペダルを使い過ぎている演奏が多く見受けられました。アーティキュレーションの明瞭さを心がけ、ペダルを使用する箇所を上手に選んでいきましょう。
- 2) 楽譜を正しく読みましょう：アクセント、スタッカート、そして強弱などの記号をどのように演奏するかは、音の流れの中にある意味内容のつながり具合によって変わります。例えば、同じアクセント記号でも、f の個所と p の個所では、異なった弾き方になります。ひとつひとつのアーティキュレーション記号は、まったく異なる意味を持つことがあるのです。
- 3) 表現力豊かで、示唆に富み、自然なフレージングを心がけましょう。

●審査員 C

アジア大会おめでとうございます。自然な音楽の流れを大切に、拍や音色に気をつけてこれからもピアノを続けて下さい。pp や ppp も大切にして下さい。またショパン国際で皆さんの成長を聴かせて頂けるのを楽しみにしています。

●審査員 D

さすがアジア大会だけあり、とても素敵な演奏が多いでした。表現力のある方ばかりで、楽しく聴かせて頂きました。ただ、自分の音の響をもっと聴いて弾けていたら更に良くなると思える演奏がありました。左右のバランスは勿論ですが、和音の中のバランスにも気を付けて下さいね。

メロディーのうたい方は自然にいていねいにうたえている方が多いでしたが、伴奏の部分が

もっと音楽的になるといいです。これからが楽しみな方ばかりです。これからも、コンクールに挑戦しながら音楽を深めていって下さい。

●審査員 E

大きな舞台であっても、堂々と演奏していらっしゃる姿に深く感動しました。

ショパンの作品を弾く時に、ルバートの表現がひとつの鍵となります。大人でも難しいですが、それが良くできている人もいました。

メロディを奏でる際、音の呼吸がもう少し感じられれば…という人もいました。

それからペダルを踏む時、ご自分の音に耳をしっかりと傾けてみて下さい。そうすると、より美しい音が表現できると思います。

●審査員 F

今回のコンクールで聴く機会があった若いピアニストたちへの私からのコメントや提案は、正直なところ以前私がこのコンクールで述べたコメントの内容と重なることが沢山あります。

真の芸術家は（敢えてピアニストではなく芸術家と呼びます）、ピアノを弾くのではなく芸術的想像力を駆使し指でストーリーを語ります。音は言葉であり、フレーズは文章であり、曲は全体の物語です。このように音楽を理解し伝えてこそ、聴く人の魂に届き、音楽のあらゆる感情や表現を伝えることが出来るのです。

以前のコンクールでのコメントの内容とも重なりますが、ペダルではなく指を駆使した「レガート・カンタービレ」、和声構造の認識、アーティキュレーション、正確なペダル、ショパンが重視した演奏の自然さ、聴衆の喝采を浴びることだけを目的とする人工的な「演出」のない演奏、メトロノームの過度なプレッシャーに左右されない音楽の時間感覚と柔軟な語り（メトロノームの正確さは、ときに芸術的想像力を乱すことがあります）はショパンを弾く上で常に覚えておきたいことです。

これらについては、指導者の皆様を通して若いピアニストの皆さんに伝えることを願っています。年少の部門の審査に於いては、演奏している子どもだけでなく、指導されている先生方の影響の大きさをその演奏から感じます。指導者の先生を審査させて頂くとも言えるかもしれません。ピアニストや音楽家という職業は決して楽なものではないのです。

才能があるとアピールするためのジェスチャーなのかと思いますが、子どもらしさからはかけ離れ、先生から教え込まれたと思われる少し芝居があったジェスチャーが散見されたところも気になりました。個人的な意見にはなりますが、このようなあまり芸術的ではな

いジェスチャーをせずとも、真の才能は保つことが出来ます。これまで長年審査をしてきましたが、しばしばこの現象は見受けられるので指導者の皆様ともぜひ共有したいと考えました。若い演奏家の個性を捻じ曲げてしまうものであり、個性を伸ばすためには決してよい方法とは言えないからです。

そしてピアニストの皆さんに直接お伝えしたいのですが、コンクールに参加する目的は賞ではありません。コンクールは、意識的にレパトリーを増やすことに役立ち、具体的で期限付きの課題を与えてくれ、向上心や集中力へもよい影響をもたらします。コンクールは若い音楽家の成長にとって重要で前向きな要素となるのです。

最後に、少し長くなりすぎたかもしれませんが、コンクールに参加された皆さん、そしてその先生方、親御さん、お子さんや生徒さんが芸術的な達成から多くの喜びを得られることを心から祈っています。ピアノを弾く若者の才能の自然な成長を穏やかに見守ることに喜びを感じましょう。